

放送大学鳥取同窓会会報

麒麟きりん

第4・5号

編集：編集委員会
発行日：2017年12月9日
発行人：西本 弘之
〒680-0845
鳥取市富安2-138-4
放送大学鳥取学習センター内



放送大学鳥取学習センター開設20周年記念式典 【麒麟獅子舞（賀露神社麒麟獅子舞保存会の皆様）】

於：鳥取県民文化会館（とりぎん文化会館）第1会議室

◆◆◆お詫び◆◆◆

放送大学鳥取同窓会会報誌【麒麟】第4号は、2016年に発行予定でしたが、編集委員の都合により、5号との合併号となりました。第4号に原稿を頂いた皆様、発行を楽しみにされていた会員の皆様に、お詫び申し上げます。

鳥取同窓会組織の強化に期待します

鳥取学習センター 所長 小林 一

前任の若良二所長の後任として、第六代目の所長に就任した小林一と申します。職員一同、力を合わせて鳥取学習センターの教育・学修活動の充実に努めて参りますので、鳥取同窓会会員の皆様におかれましても引き続き温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

放送大学鳥取学習センターは1997年に開設され、来年、20周年を迎えます。開設以来、2016年1学期までの期間中に学士171名、修士11名の学位取得者を社会に送り出してきました。同窓会会員の皆様が、仕事や家庭を抱えて苦労しながらの学修を無事に終えられ、学位取得後にそれぞれの職場や地域で御活躍されていることに敬意を表します。

また、鳥取同窓会から「卒業をお祝いする会」、「放たまつり（放送大学鳥取学習センター文化祭）」等を通じて、毎年、当学習センターに対して活動支援を行っていただいています。いずれも当センターにとって欠かすことのできない年中行事となっており、お力添えに対し厚くお礼を申し上げます。

一般に大学同窓会は、卒業生・修了生による親睦と大学に対する外部からの活動支援を役割として設置されています。2011年4月に定められた放送大学鳥取同窓会規則にも、目的の項目を設けてそのことが明記されています。こうした目的に沿って同窓会組織による充実した活動が実施されれば、そこから生まれる活力を現役学生に対しても振り向けてもらうことができるため、学習センターにとって大きな力となります。

このような観点から鳥取同窓会の現状を捉えるとき、センター運営にあたる所長の立場から、同窓会の組織強化に大きな期待を寄せるところです。本同窓会は、鳥取学習センターに所属して学部または大学院を卒業・修了した方が、任意に加入する組織となっています。任意加入であるがゆえに、約200名に達する卒業生や修了生のうち、同窓会員数は59名にとどまっています。会員数と予算規模が小さいため、おのずと活動量が小さくならざるを得ないというのが実情のようです。

鳥取学習センターは、全国で最小規模の学習センターとなっていて、毎年の卒業生と修了生の人数は多くはありません。それだけに同窓会への加入率を高め組織強化に努めて、特色ある同窓会活動が展開されるよう願っています。来年には開設20周年の節目を迎えることを契機に、同窓会組織の強化について検討が進むよう期待するところです。

*この原稿は、2016年5月にいただいたものを、そのまま掲載させていただきました。ご了承ください。

そぞろ歩き

鈴木輝博

平成27年3月「人間と文化コース」を卒業しました。

東京のNHKホールでの学位授与式に出席し、祝賀会会場で学長先生と少し会話をしたことが、いい思い出になっています。

「やっとこれで学卒になれた」というのも、私はいわゆる団塊世代で受験戦争に敗れたのですが、どうしてもその夢、たちがたく常に頭の片隅にかけらとして残っていました。

定年退職したら、どこかの大学に入学して文化人類学なるものを学んでみたいとも、思いましたが、学資が足りないことに加えて入学試験があることなどで諦めざるをえませんでした。

そこで、前職場の先輩の勧めもあって入学試験もないし、授業料も安い。そのうえ、自宅から15分程度と交通の便もよい放送大学にお世話になることになりました。これが入学までのいきさつです。

現在は、地域活動のことも考えて、「生活と福祉コース」に再入学しております。この学問は、今までやってきたことと全然違います。いわゆる実学とでもいうのでしょうか。「少子高齢化」、「リスク社会」など、切実な問題が多く取り扱われており、少し戸惑いましたが、マイペースでぼちぼちやっていくつもりです。

さて、入学後、ノルディックウォーキング同好会に入会しました。

はじめは、手と足の出し方がうまくいきませんでした。習うより慣れろで、いまでは4足歩行であちこち歩いています。毎夜、8時ごろ自宅を出て、鳥取駅構内を通過し、居酒屋街道化したメインストリートを北に向かい、途中で右におれて末広温泉町、弥生町のいわゆる飲み屋街を横切って歩くのです。

新しい店ができたとか、なくなっているとか、おいしそうな食べ物屋ができている、あそここの小路には猫がいるなど情報収集をしながら帰宅の途に着きます。この間、30～40分の行程です。

このごろ気づくことは、元気のいいのは、中年のおばさまと70歳ごろのおじさん。若い人のグループはすっかり見なくなりました。皆さんどこへ行ったのでしょうかね。

信号待ちをしていると、「これいいですか」と問われる方もいます。

いつもこう答えます、「4本足ですので、負荷分散されて、足腰には良いようですよ」と、なるほどと納得したように去っていかれます。

私は、これをはじめてから体重が5kgくらい減りました。

また、休みの日には（といっても毎日が休みですが）ウォーキンググループで、本陣山に登ります。山道の傍らに咲く草花などに目をやったりして頂上まで歩きます。頂上では遠く湖山池、日本海、飛行場、天気の良い日には大山が見えます。時々、こうして山の「気」をもらうことにしています。ということで、これからも、いろいろと周りを見ながら、そぞろそぞろと人生を歩いていこうと思っています。

*この原稿は、2016年5月にいただいたものを、そのまま掲載させていただきました。

放送大学で学んだこと

酒井靖博

退職後の糧を何に求めるか悩みはじめ、勉強することに決めて2001年春に、科目履修生として「人間探求」に入学しました。入学試験がなかったのも大きな要因ですが、「とりあえず勉強しよう」といった軽い気持ちでした。

好きな科目を3科目登録し試験を受けましたが、そんな気持ちでしたので1科目が追試となり、もう1科目は、故若桑みどり教授から「あなたの勉強方法は間違っていないか。教科書以外からも広く深く学ぶように」と叱責と激励の手紙を頂戴しました。

「大学って個人に手紙をくれ、是正を求める。さすがは通信制大学だ！」と感心し、全科履修生に編入し仕事と両立しながら文化人類学や歴史、文化を学び、過去を知り現在に活かすことを学びました。

「社会と経済」は、2年間大学院の「環境政策論」の科目履修生として並行での勉強でしたので厳しかったが、最初の卒業と同時に環境カウンセラーの資格を得ていたため、ライフワークとしている地球温暖化防止の解決には、経済と環境のバランスが必要と痛感しました。原発問題で、＜危険だから廃炉＞の短絡的に考えるのではなく、現在の生活や経済発展を維持しつつ地球の温暖化を防止する、環境と調和を目指す「サステナブルデベロップメント」の考えが必要であり、多面的に複合的に将来への影響も含め考え、最良の方法を模索していく必要があることを学びました。

「自然の理解」では、環境問題の疑問や問題点、IPCCや世界での取り組み、全国各地で実施されている施策、対策の現況を知り、自分に何ができるのかを問ながらの勉強でした。星が趣味でしたので宇宙の勉強では、地域での観望会の実施や小学校等への出前授業として活かすことができました。

「福祉と生活」の受講では、以前住んでいた但馬の陶芸室に、高齢者や障害者が楽しみ一日陶芸として、訪れていました。その時は「糸賀一雄の福祉思想と実践」の面接授業の後でしたので「ここで陶芸をしている時間だけでも障害を忘れ、生きている喜びや作陶する楽しさを感じてくれれば」との気持ちでボランティアしておりました。福祉を学んで改めて当時に振り返り、あれでよかったのだと自問自答しています。弱い立場の人に同情するだけではなく、インクルージョンとして地域で応援できればと思っています。

鳥取学習センターで卒業時に山之内元センター長が、「放送大学で学んだだけでは、唯の物知りだ。学んだことを社会に還元し、役立つ人になることが放送大学で学んだということです」とのご祝辞に励まされ、座右の銘としております。

現在は、「心理と教育」の勉強中ですが、地域住民として学校や子どもをサポートする方法や関わり方などを学び、また心理学では、自分の心を見つめ直すことを学んでおりますが、奥の深さにまだまだ浅学を感じております。

あと4単位ですので、来年9月には卒業できることと思いますが、実質的に身に付け活動へ生かすには、まだまだ学ぶ必要が多すぎます。

放送大学で、いろいろな教科を受講し第一目標の300単位はクリアし、物事を多面的に考える大切さが解ってきました。ゴールはありませんのでこれからも時間の許す限り学び続けたいと思います。

追記

平成28年3月25日卒業式の授与式場の前に、各センターの幟がはためいておりました。鳥取センターのもあり声を掛けたところ、若センター所長とお会いすることができました。

その後、清水さんご夫妻も出席と中尾事務長さんに聞き、2階の中国、四国エリアに向かうと、ロビーでご夫妻にお会いすることができ、長らくお会いしていない時間が一瞬で吹っ飛び、懐かしさをともにすることができました。

分かれの際、メールアドレスを教えていただき、近況を送りあうことができるようになり、同窓会への投稿の要請をいただきました。

上記の文面は、昨年9月に卒業を迎えた際、和歌山の「てまり」に投稿したものを一部手直ししました。

清水さんご夫妻から、鳥取学習センターの様子が伺い、懐かしく感慨しております。

現在、環境カウンセラー（市民部門）、IPCCレポートコミュニケーター、大阪府地球温暖化防止推進委員を引き受けております。そのほか地元の防犯組織自警団での見回りや趣味の陶芸クラブ、ボーリング教室への参加等で、楽しく残りの人生を送っております。

自宅は、大阪府の南端に位置し、大阪湾を見下ろす北斜面の高台で、遠くには六甲山の山並みや正面真北には神戸の元町が見え、左には明石大橋や淡路島を眺め、右には関西国際空港を眺めるロケーションに住み、勉強に疲れた時には、ボーと眺めてリフレッシュしております。

お近くにお越しの折は、是非お声掛けいただければと幸甚に思います。



2016.3.26 NHKホールにて

*この原稿は、2016年5月にいただいたものを、そのまま掲載させていただきました。ご了承ください。

卒業旅行

清 水 道 代

「あと3単位で卒業だ」。平成27年3月、成績表を見ながら夫がそうつぶやいた。「卒業式は、東京に行こうかな？」と。

3月と言えば年度末。毎年、仕事に追われているのに、東京に行く？！

わたしも東京に行きたい！

しかし、その時点で12単位足りていなかった。どうせ行くなら「付き添い」より「卒業生」として出席したい。果たして12単位、1年でとれるだろうか？

というわけで一念発起したわたしは、話せば長〜くなるがどうか12単位をクリアし、平成27年度放送大学学位記授与式に出席するため、平成28年3月26日、鳥取空港発1便の機上の人となった。

わたしにとって3度目の卒業にして、初めての「NHKホール」での学位記授与式。それは、テレビで見るより厳かで感動的だった。若所長、中尾事務長が見守ってくださる中、式典は滞りなく行われた。そして、酒井さんとの9年ぶりとなる再会！

こんな素敵な偶然があるなんて、東京に来て本当に良かった。がんばった甲斐があった。品川プリンスホテルでのパーティーには大勢の卒業生や先生方が参加され、盛大だ。なにもかもきらきらしている。各学習センター長がお祝いに届けてくださった全国の銘酒に酔いながら、卒業の喜びに浸る。そして、会を取り仕切ってくださる関東ブロック同窓生の皆様のお世話を脱帽。こんなにたくさんの卒業生と同窓生がいる事を実感したひとときだった。

和装の立脇さん、島根学習センター卒業生の方たちや岡部学長との記念撮影や卒業に至るエピソード交換などをしていると、時間はあっという間に過ぎた。パーティーの余韻を楽しみながら会場を後にした。

東京での最大のイベントは終わったわけだが、ここからが本題の「卒業旅行」だ。このために、とにかく頑張った。ここから、2泊3日の卒業旅行が始まる。

滞在先ホテルは「赤坂見附」駅の傍にある。例年「ホテルニューオオタニ」で開催されていたので、早特割で赤坂見付を予約したが、「今年は品川プリンスですよ」と言われ、絶句。しかし、「時、すでに遅し」。というわけで、品川から赤坂見附へ。電車の乗り換えもスマホのアプリでサクサクこなし、ホテル到着。荷物を置いて、周辺を散歩。

春まだ浅い東京は、桜の木の枝先に桜の花がちらほら。ほんの一昨日位に開花宣言が出たばかり。そんな春先の赤坂の街をぶらぶら歩く。赤坂は、坂が多い。日枝神社にお参りしていると日が暮れた。

翌日は、旅のメインイベント。同郷の友人と渋谷ハチ公前で待ち合わせ。スクランブル交差点のスタバでコーヒーを飲みながらその時間を待つ。久しぶりの再会に盛り上がり、彼女が働く代官山のケーキショップへ。ここの人気メニューを5品ほどいただく。美味しい♥代官山はおしゃれな街。品のいい街並みをぶらぶら散策。風は冷たいけどいい天気。目黒川沿いを次の目的地「目黒寄生虫館」へ。ここは、前からどうしても訪れたかった場所だ。

出発前、「東京へ行ったら寄生虫館へ行く」と、何人かの人に話したら「え？」と嫌な顔をされた。案の定、一緒にいった旧友も「気味が悪いから、外で待ってる」という。ここまできてそれはないだろう。「無料だよ、世界でここにしかないんだよ」と説得。一緒に入った。こじんまりしているが、展示物は充実している。そして、標本の美しいこと。寄生虫は、わ

たしにとっても体には絶対入って欲しくない生き物だが、つつい興奮して観察してしまった。パネルや展示物も内容が濃い。寄生虫が媒介する病から人々を救った研究者たちの業績に脱帽。そして、ミュージアムショップで寄生虫館グッズを購入。その頃には友人も寄生虫に慣れて、三人でおそろいのキーホルダーを買った。寄生虫と写真撮影もした。

寄生虫館で一気に盛り上がり、目黒を散策しながらランチの場所を探す。目黒川沿いの桜並木も見頃はまだまだ。ここも坂が多い。「権之助坂」をてくてく下る。

遅いランチの後、東京駅へ。バスに乗って、東京タワーへ。「スカイツリー」より敢えて「東京タワー」チョイス。

東京タワーは、昭和の匂いを残しながら、そこに立っていた。展望所で東京の街を見る。春の日がだんだん暮れていく。ビルや街頭に明かりが灯る。日本で一番大きな街、東京。鳥取をしばし忘れて、東京の夜景に浸る。この前ここに来たのは、中学生の時。つい、この間のことのような、遠い昔のような。その頃、社会人になってから大学を卒業して、卒業旅行で東京に来るなんて、思いもしなかった。毎日あくせく働いて、勉強して、いろんなことをいろんな人から教わって、そして、いま、東京タワーで夜景を見ている。

これから先のことはわからない。でも、なんだかんだいいながら、放送大学は続けるんだろうな。

東京駅で友達と別れ、ふたりで赤坂見付のホテルに帰る。それにしても、東京では絶対迷うと思っていたのに、アプリって、ほんと便利。

翌日は、小雨の中、お台場へ。

南極観測船「宗谷」をみて、「日本科学未来館」へ。お目当ての「カミオカンデ」の展示はリニューアル中でみられなかったが、それなりに楽しめた。「ゆりかもめ」などを乗りついで、羽田空港へ。こうして、2泊3日の卒業旅行は幕を閉じた。

その後、テレビで「渋谷」、「NHKホール」、「代官山」、「目黒川」、「東京タワー」、「お台場」などが映るたび、その日のことを鮮明に思い出す。無理をしたけど、行った甲斐があった。現在、和歌山学習センターで活躍されている酒井さんとは、メル友です！



学位記授与式（東京・渋谷・NHKホールにて）



まなびー



祝賀会（岡部学長&中四国ブロックの皆さんと）

*この原稿は、2016年5月にいただいたものを、そのまま掲載させていただきました。ご了承ください。

和風サークルさつき

立 脇 寿 江

鳥取学習センターに「和風サークルさつき」を、立ち上げて一年があつと言う間に過ぎました。代表を務めている私は、ザ・素人。心強い人たちもいて、回数を重ねる度に、再確認・記憶の蘇り等、笑いの絶えないサークルです。是非一度、顔を出してください。

今は着付けが、メインですが、和風小物作成など（チクチク先生）も予定中。楽しいひと時をご一緒しましょう。

和服に縁のなかった私が心揺れたのは、母の死でした。喪主をしたのですが、和服についての知識は皆無。知人に助けられて務めました。母子家庭で裕福でもないが、私に筆筒と着物を残した母。一年後、機会があり数回の着付け後、美の壺にどっぷり。遅くなってしまったけど、親孝行の真似ごと気分のスタートでした。

着物は好き。よく聞く言葉ですが、着る機会がない・行く場所がない・苦しいなど、聞きます。さつきは、いつでも・何処でも・楽しく・心地よくが、モットーです。講演会・面接授業・女子会・散歩などしています。

あなたも、筆筒にパンドラの箱が入っていませんか？

全員で知恵を絞り、着物を生き返らせるのです。（費用は個人負担）親子だけでなく、3代・4代と伝えて行けます。そして多少の体型変化にも対応します。

世界で一番高価な民族衣装・着物。

あなたも、送ってくれた人に見せてあげませんか？

参加してお話するだけで元気になります。学生生活の中にいこいのひと時を共有しましょう。開催日時は鳥取学習センターへお問い合わせください。

*この原稿は、2016年5月にいただいたものを、そのまま掲載させていただきました。ご了承ください。

◇◆◇平成28年「放大まつり（第4回）」開催◇◆◇

平成28年11月23日、4回目となる「放大まつり」が鳥取学習センターにおいて開催されました。学生、同窓生による和・洋楽器の演奏などに加え、和風サークル「さつきの会」が中心となったカレーの食べ比べ、恒例のバザーなどが開催され、大いに盛り上がりました。また、会場には、書に親しむ会の作品展示や、絵画・写真の展示、ジオ部研究ポスター・標本の展示もあり、訪れた方々の関心を集めていました。



山内益男先生追悼文

2017年2月6日ご逝去（享年78歳）

佐々木 純子

ご無沙汰致しております。

今年の寒さは近年にないほど厳しく、久松公園のさくらの花もやっと開き始めました。

山内先生のおもいでを書いてくださいと依頼がありました。少々昔のことで、わすれてしまったことも多々有りますが…。

2007年度の卒業式の時に先生から贈呈された卒業証書、2008年4月1日付の日本海新聞をみると、背の高い先生の方が頭を低くされていて、私はつたつたといばっているような写真、恐縮しまして家族で笑いました。

あまりお話しする機会がありませんでしたが、最初は高齢の生徒に戸惑っておられましたね？メールアドレスを募集したり、いろいろ生徒との繋がりを試みておられましたね。

北海道からおくってきたというトウモロコシを生徒控室で頂き、とてもおいしかったことも懐かしいです。

廊下の壁にハترون紙に貼られた身近な沢山の景色の写真、感動をもって見せていただきました。それに誘発されて、生徒も何かしなくては申し訳なく思い、習い始めた水彩画を友人3人とかけさせていただきました。はじめ躊躇していた友人もとても喜んでいました。これをきっかけに友人との絆も深くなり今に至っています。

退職されてからは、選挙のお手伝い等々忙しくなさっているご様子、風の便りにお聞きしました。

2010年年8月の放送大学の研修旅行（西はりま天文台公園、放射光施設スプリング8）に参加されていてお元気だとばかりおもっていました。

お別れは、世の常といえども胸が詰まる思いがいたしました。

今は、2017年4月2日何人かの生徒が卒業、入学。9年前の卒業式がついこないだのように思い出され「生涯勉強、生涯青春、学ぶ喜び」を再認識いたしました。

またお会いできる日をたのしみにいたしております。ありがとうございました。

2017年4月2日

佐々木純子 73歳

放送大学鳥取学習センター所属

最高齢学生加藤一郎氏（法名帰一法道信士）の逝去を悼んで

全科履修生 大東 辰雄

加藤一郎氏は、当学習センター所属の最高齢の学生でした。

1921年3月30日 八頭郡若桜町生まれで、旧制鳥取1中を卒業後、日本鉱業小千谷事業所に勤務後、徴兵で満州に行き、そこで終戦を迎えられました。

終戦時には、ソ連軍の侵攻に伴いシベリアに連行されて抑留されました。

日本に帰還後は、鳥取県職員として勤務され、退職後、鳥取砂丘こどもの国、協同組合鳥取鉄工センターに勤務をされたと聞いています。

私が、加藤さんと初めてお会いしたのは、戦後シベリアから帰られて、県職員として勤務後、津ノ井にある協同組合鳥取鉄工センターの常務理事として勤務をされていた昭和61年に、県商工労働部の職員として鉄工センターとの係わりを持ったのが最初です。

当時は、新しいものにも積極的に取り込まれ、当該組合は鳥取における中小企業高度化事業の成功例として注目を浴びており、自らが先頭にたっておられたのをありありと思い出します。

その後、私が鳥取県から放送大学学園に派遣され、鳥取学習センターを平成9年に立ち上げて、学生募集で苦勞していた際に、旧知の加藤さんに声をかけたところ、快く学生になっていただいたのを覚えています。

学生になられると、学友会の研修旅行をはじめとする行事に積極的に参加され、センターの学友会活動の振興に御助力をいただき、大変助かりました。

私は、縁あって、再び鳥取学習センターに平成26年4月から勤務することになりました。その時、加藤さんは引き続き在学しておられ、病氣治療後、やっと退院をされたところであるということをお聞きし、休日に、お見舞いに自宅を訪問すると、加藤さんは、一生懸命、教科書を見ておられ、といわれ、「大東さんや勉強せないけん。歳とって、勉強せんとぼけるぜ。」「リハビリに施設に通ってるが、そこでいろんな年寄りにあうが、もと教員だろうと、議員だろうと、勉強せんやつはぼけるとぜ。あんたも、勉強せんといけん。」といわれ、「わしは、あんたのおかげで放送大学を知ったことを、感謝している。」といわれ、大変恐縮した次第です。

その後も、何度か体調の悪い状況がつづくも、学習意欲は衰えず、放送授業や面接授業の受講をされていましたが、平成28年3月に連絡をとったところ、「もう目が見えなくなって、残念だが勉強が続けられない。もっと、取りたい授業や受けたい面接授業もあったのに。」と残念がっておられました。

又、加藤さんは、シベリア抑留の体験談を放大まつりで語られ、戦争は絶対にしてはいけない、仲良くしなければいけないとの信念から、民間レベルの交流の必要性を認識され、モンゴルとの交流にも係わり留学生のお世話をされていました。

さらに、平成13年に鳥取県日仏友好協会の創設に当たっても、平和でよりよい世界を築きたいという秘めた想いを、フランスのギメ東洋美術館学芸部長ジャンポール・デロッシュ

の奥様である、シベリア抑留時代の戦友の深井氏の長女の幸代様の熱心な薦めにより、日本とフランスの架け橋となる組織の結成に向けて精力的に呼びかけられ、結成に至ったのは、関係者の遍く知るところであります。

平和をこよなく愛する加藤さんにとって、特に、最近の政治の動向には危惧をされていました。天国の加藤さんの危惧が現実とならないことを念ずるものです。

加藤一郎さんの一生は、96歳まで常に向学心、探究心をもたれ、放送大学学歌にあるように、「いきるとはまなぶこと まなぶのはたのしみ いきるとはしること することはよろこび ちはちから」を实践された人生ではなかったのではないのでしょうか。

私は、学びの路に続くものとして心から哀悼の意を表する次第です。

■お悔み■

第3代山内益男所長、鳥取同窓会特別会員加藤一郎さんがご逝去されました。ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

**放送大学鳥取学習センター開設20周年

記念シンポジウム・記念式典・記念講演会 開催**

平成29年11月19日、とりぎん文化会館にて、放送大学鳥取学習センター開設20周年記念シンポジウム・記念式典・記念講演会が開催されました。

記念シンポジウムは、鳥取学習センター所長小林一氏「放送大学および鳥取学習センターの現状」というタイトルで幕を開けました。その後、鳥取同窓会清水道代氏、同三ツ國全代氏、同中尾政晴氏の3名が体験発表をし、放送大学で学ぶ意義、成果などを述べられました。

鳥取県図書館協会会長山田晋氏による「鳥取県における生涯学習と放送大学」講演の後、小林所長の進行で、來生学長、第4代所長西田良平氏、第5代所長若良二氏による討論会が行われ、地域における鳥取学習センターの役割などについて議論されました。

午後からの記念式典は、鳥取県知事平井伸治様、鳥取市長深澤義彦様、鳥取大学長豊島良太様をお迎えし、盛大に催されました。

記念講演会では、講師の放送大学長來生新氏が「日本人と海ー日本は真の海洋国家となりうるかー」というタイトルで、日本人と海の歴史的なかかわりや現在の海の管理の法制度を通じて、日本の海の持っている可能性や、日本が海洋国家となるべき道について講演されました。

また、とりぎん文化会館展示室には、「幕末から明治初期の写真（放送大学図書館所蔵）」「鳥取県内の明治から大正時代の写真（鳥取県立公文書館・鳥取市歴史博物館所蔵）」「世界の大学切手コレクション（熊原啓作氏所蔵）」「放送大学鳥取学習センター20年の歩み（年表）」、学生作品などが展示され、500名を超える方々が来場し、熱心に鑑賞されました。



鳥取学習センター小林所長
「放送大学鳥取学習センターの現状」



体験報告「放送大学鳥取学習センターに学んで」 左から清水道代氏 三ツ國全代氏 中尾政晴氏



山田晋氏 講演の様子 記念式典 左から西本同窓会長 坂本学友会長 來生学長 小林所長（司会清水） 記念講演会 來生学長



展示室の様子



香山RINCO氏による琴の演奏と西本同窓会長によるお抹茶の振る舞いを楽しまれる参加者のみなさん



◆◆事務局便り◆◆

☆平成29年度「放送大学鳥取同窓会定期総会」開催

- ・日 時：平成29年5月14日（日）11：00～12：19
- ・場 所：放送大学鳥取学習センター 多目的室
- ・出席者：16名

定期総会では、来賓に鳥取学習センター小林一所長様をお迎えし、平成28年度事業報告、同会計決算報告及び会計監査報告・業務監査報告がなされました。続いて、平成29年度事業計画案と同予算案が提示、その後、役員改選が行われ、以上、満場一致で承認されました。

新役員

会長 西本弘之（留任） 副会長 澤田廉路（留任） 同 清水道代（留任）

同（兼会計担当）三ツ國全代（新任）

理事 佐々木純子（留任）、同 山田順子（留任）、同 吉田博志（留任）、同 鈴木輝博（新任）、同 森下敏行（新任） 同 安田直人（新任）

監査 清水謙一（新任） 同 濱吉晶子（新任）

閉会后、ワシントンホテル（銀座）にて、昼食会が開催され、出席者の皆さんで和やかにお昼のひとつときを過ごしました。

☆会員状況（平成29年11月22日現在）

通常会員54名 特別会員9名（計63名）

☆学友会共催事業について

在学生・教職員の方々との交流・親睦を図ることを目的に、納涼会・忘年会などを学友会と企画しています。鳥取学習センターのホームページ、機関誌「ぷりずむ」をご覧の上、お申込みください。皆で参加しましょう！

☆忘年会開催

2017年12月2日（土）

「しゃぶしゃぶ温野菜」にて忘年会が開催され、小林所長、客員の先生を含めた14人が集まり、今年一年を振り返りました。美味しい鍋を囲みながら話が弾み、気が付くと3時間が経過していました。大盛況で、お腹も心も満足でした。



☆鳥取同窓会会報誌「麒麟」原稿募集

鳥取同窓会事務局では会報誌「麒麟」の原稿を随時募集しています。会員の皆様の学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、論文、詩、自慢話、ちょっといい話など、形式は問いません。当会に対するご意見、「麒麟」に関するご感想などもお寄せください（400～2,000文字程度）。

◆編集後記◆

編集作業をしながら、いろいろなことを思い出していました。喜怒哀楽、反省すべきこと、多々ありました。新しい年が、皆様にとって素晴らしい年となりますように。

(M. S記)